



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑦1

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みのお治療について説明してくれるコラム。痛みを取り除く、緩和することの重要性がようやく患者・医師ともに理解されてきた昨今。ペインクリニックと神経ブロックについて話をしてくれます。

神経ブロックは手術の際の麻酔に用いられた方法
怖い痛みは誤解。我慢、放置せず早期治療が肝要

痛みが病気の程度や部位を知る上で大切な情報だったころは、痛みを鎮めることは診断や治療の二の次とされ、患者自身も痛みは我慢するものとの考えが主流でした。今日痛みの除去、緩和が理解されはじめています

が、痛みの専門的治療であるペインクリニックと治療手段である神経ブロックに關しての理解はまだ深まっています。

ペインとは痛み、クリニックとは診療所を意味し、ペインクリニックは痛みを専門的に診察・治療する医院や病院を意味します。現在日本ペインクリニック学会が認定するペインクリニック専門医は全国で約1500人、学会の施設認定を受

けている病院は300施設程で、まだまだ少ないのが現状です。医療の話になります

が、麻酔なしで手術が可能だと思えますか。メスを入れた時の痛みを我慢できますか。無理ですね。痛みを脳に伝えないようにしなければ手術はできません。

神経ブロックはもとも手術時の麻酔に用いられた方法です。ブロックとは遮断するという意味で、痛みを発生する部位に局所麻酔薬などを用いて痛みの信号を伝えないようにする方法です。麻酔の手法の多くが現在ではさまざまな痛みの治療に応用されるようになってきました。

トリガーポイント注射の効果が長きに痛みを鎮めることができます。

痛みの治療法は手術療法と保存的療法に分けられます。一般的な保存的治療は薬物、理学、運動、心理、光線療法ですが痛みが緩和できない場合に「神経ブロック」を駆使するペインクリニックの出現となります。

痛みの治療法は手術療法と保存的療法に分けられます。一般的な保存的治療は薬物、理学、運動、心理、光線療法ですが痛みが緩和できない場合に「神経ブロック」を駆使するペインクリニックの出現となります。

痛みを我慢し放置すると、傷は治っても痛みは治まらず、かえって強くなることもあります。また不快なつらい痛みへと痛みの性格が変化して治療しにくくなり、精神もむしろ、傷は治っても痛みは治まらず、かえって強くなることもあります。また不快なつらい痛みへと痛みの性格が変化して治療しにくくなり、精神もむしろ、傷は治っても痛みは治まらず、かえって強くなることもあります。

痛みで困っている方、ブロックは痛い怖いと思われがちです。気楽にペインクリニックに相談されるとよいでしょう。詳しくは、梶木病院北区西花尻(☎086)293-0005へ。